

第 4 回公共事業評価部会

河川・海岸事業に係る残事業 B / C について

平成 21 年 8 月 10 日
土木部河川課

河川整備の計画制度について

1 河川整備の計画制度

平成9年河川法改正により、治水・利水・環境の総合的な取り組みとして、水系または圏域毎に策定を進めています。

河川整備基本方針

水系毎に河川整備の長期的な方向を示す。
一級水系は国土交通省、二級水系は都道府県が策定します。

河川整備計画

水系または圏域毎に、今後概ね30年間に於ける具体的・段階的な整備内容を示す。
一級水系は国土交通省、二級水系は都道府県が策定します。
学識者や地域住民、地域市町村長から意見を聴取り計画に反映

河川改修事業

河川整備計画に基づき改修区間を定め、整備効果の発現を図るため改修事業を実施していきます。

2 河川事業の特性

■ 浸水被害頻度の改善など効果を図るには、一定規模区間の改修が必要です。

・ 資産が集積する市街地や重要施設が隣接する一連の区間

・ 下流へ氾濫が発起しないよう、山付けや道路などの高盛土部等までの区間の整備が必要

■ 事業に伴い、掘削や堤防整備のほか、橋梁架替など施設改築を行うため、整備効果の発現に約20～30年と長い時間を要します。

土木行政推進計画〔河川・ダム〕

【基本方針】

土木行政推進計画「見える川づくり10箇年計画(H20.3月策定)」に基づく河川(箇所)・区間の重点化

◆治水安全度向上に高い効果が期待できる建設ダム事業に重点投資

- ・長沼ダム及び払川ダム建設事業の推進(H24完成予定)

◆人口・資産が集積する大規模河川や都市部河川の重点整備

- ・平成24年度完成予定の長沼ダムと歩調を合わせた迫川の整備推進

- ・増田川(川内沢川)放水路部の緊急対策特定区間(H24完成予定),

大川(本町橋架換H23完成予定)等

◆水害常襲河川の安全度向上

- ・白石川(荒川), 白石川(平家川), 田尻川(百々川・佐賀川), 南沢川, 皿貝川等

◆「宮城県沖大規模地震津波高潮対策」の推進

- ・鹿折川(H24完成予定), 高城川

- ・河川防潮水門(三陸南沿岸13水門)の無線による遠隔操作化(H20までに有線による遠隔操作化完了)

◆「県の富県戦略」を支援する治水施設の整備

- ・竹林川(明通川防災調整池)の整備推進(H20完成)

※ なお, 土木行政推進計画においては河川名のみならず重点整備する地区名(区間)も明示

平成21年度公共事業再評価対象事業の概要

1. 実施中の河川事業 ⇒ 優先度の高い事業として重点的に実施しているもの

・白石川(荒川), 増田川(川内沢川)

2. 休止中の河川事業 ⇒ 休止理由が解消次第事業再開予定のもの


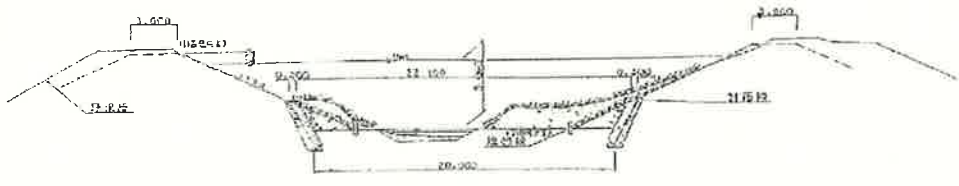
- ◆ 全て河川事業として必要かつ重要な事業であるが、以下のような理由で休止している
- ① 河川事業全体の予算額の抑制に伴い休止している河川(津谷川)
- ② 下流整備による流下能力増を待って事業再開予定の河川(洞堀川)
- ③ 他事業との調整のために時期を調整中の河川
- ④ 用地が解決次第再開予定の河川

※補助事業として、休止中であっても事業箇所位置づけられるため、原則5年ごとの再評価対象となっている。

残事業B/Cについて（河川事業別）

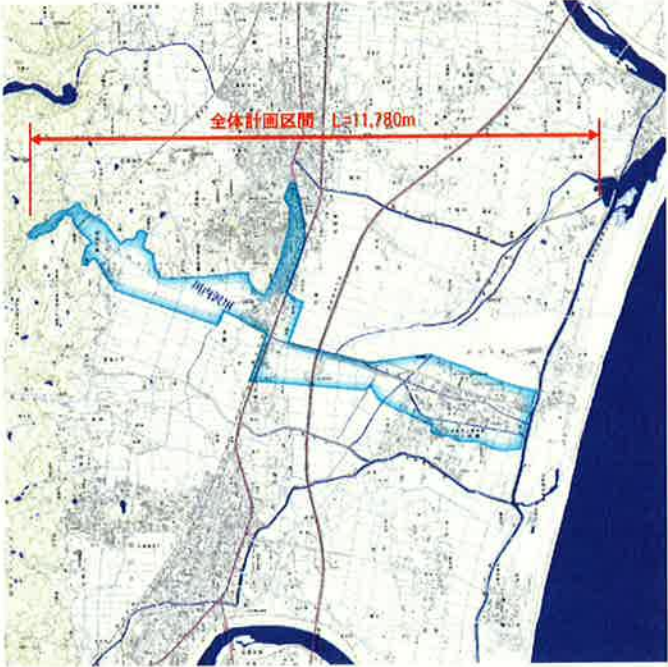
■ 広域基幹 白石川（荒川）河川改修事業

完成年次：H40年度

費用	H22～の残事業費（C） （H40完成までの建設費とH40完成後50年間までの維持管理費）										
便益	H22～の残事業に係る便益（B） （H40完成後50年までの便益）										
概要図											
標準断面図											
残事業費用対効果	<table border="1" data-bbox="363 1711 1380 1883"> <tr> <td>費用</td> <td>残事業費（C）</td> <td>598百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>残事業に係る便益（B）</td> <td>8,202百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">残事業に係る費用便益比（B/C）</td> <td>13.716</td> </tr> </table> <p>※金額：現在価値化後</p>		費用	残事業費（C）	598百万円	便益	残事業に係る便益（B）	8,202百万円	残事業に係る費用便益比（B/C）		13.716
費用	残事業費（C）	598百万円									
便益	残事業に係る便益（B）	8,202百万円									
残事業に係る費用便益比（B/C）		13.716									


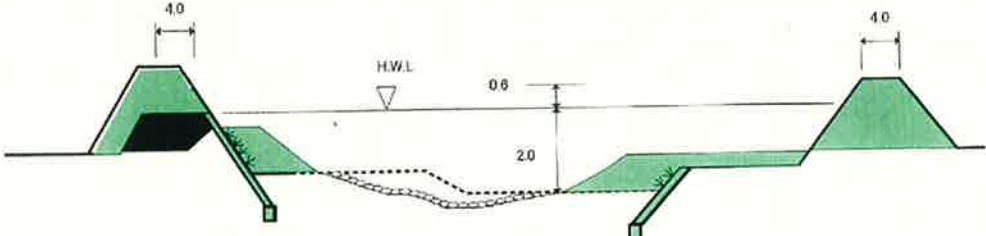
■ 広域基幹 増田川 (川内沢川) 河川改修事業

完成年次：H40年度

費用	H22～の残事業費 (C) (H40完成までの建設費とH40完成後50年間までの維持管理費)										
便益	H22～の残事業に係る便益 (B) (H40完成後50年までの便益)										
概要図	 <p>全体計画区間 L=11,780m</p>										
標準断面図	 <p>階段式護岸(空石積) 寄石+植生</p>										
残事業費用対効果	<table border="1"> <tr> <td>費用</td> <td>残事業費(C)</td> <td>5,907百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>残事業に係る便益(B)</td> <td>27,418百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">残事業に係る費用便益比(B/C)</td> <td>4.642</td> </tr> </table> <p>※金額:現在価値化後</p>		費用	残事業費(C)	5,907百万円	便益	残事業に係る便益(B)	27,418百万円	残事業に係る費用便益比(B/C)		4.642
費用	残事業費(C)	5,907百万円									
便益	残事業に係る便益(B)	27,418百万円									
残事業に係る費用便益比(B/C)		4.642									

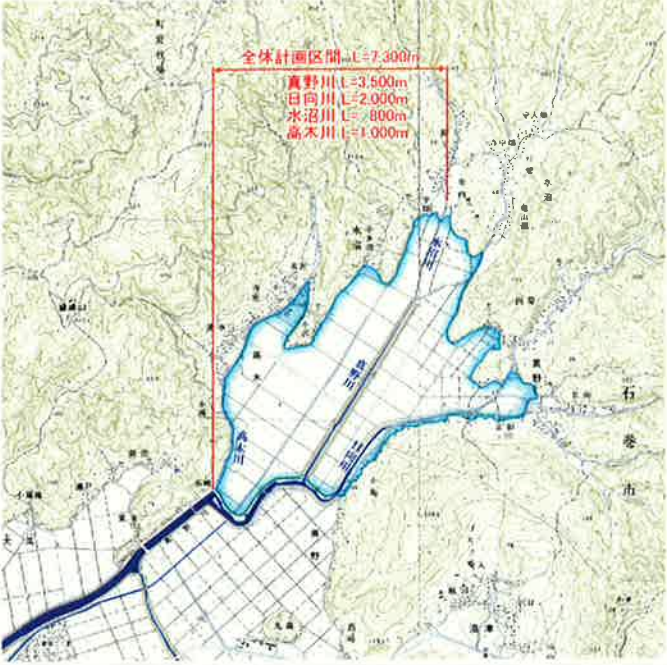
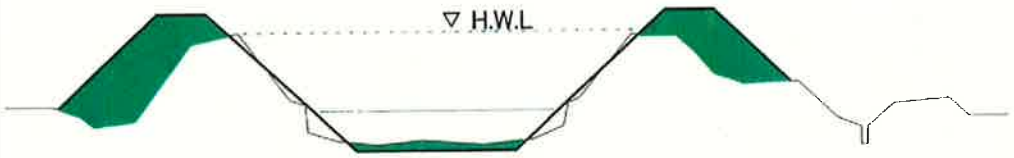
■津谷川 総合流域防災事業

完成年次：H40年度

費用	H22～の残事業費（C） （H40完成までの建設費とH40完成後50年間までの維持管理費）										
便益	H22～の残事業に係る便益（B） （H40完成後50年までの便益）										
概要図											
標準断面図											
残事業費用対効果	<table border="1" data-bbox="363 1713 1385 1888"> <tr> <td>費用</td> <td>残事業費(C)</td> <td>1,208百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>残事業に係る便益(B)</td> <td>3,784百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">残事業に係る費用便益比(B/C)</td> <td>3.132</td> </tr> </table> <p>※金額:現在価値化後</p>		費用	残事業費(C)	1,208百万円	便益	残事業に係る便益(B)	3,784百万円	残事業に係る費用便益比(B/C)		3.132
費用	残事業費(C)	1,208百万円									
便益	残事業に係る便益(B)	3,784百万円									
残事業に係る費用便益比(B/C)		3.132									

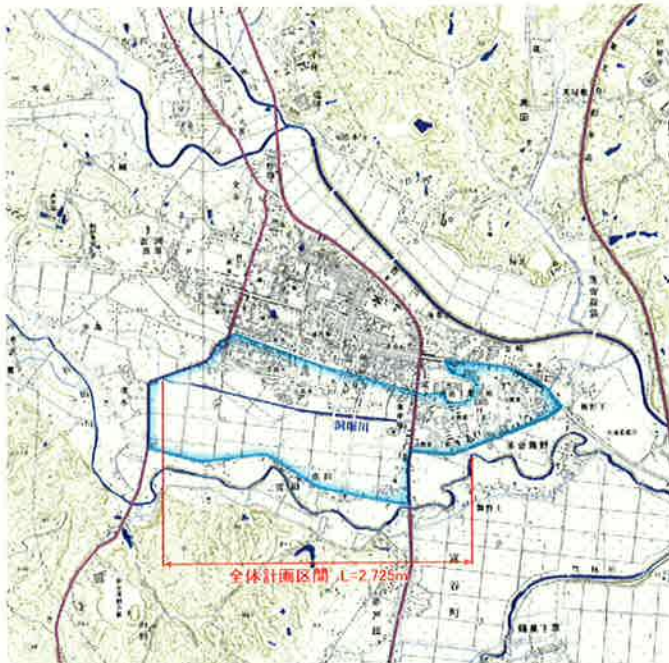
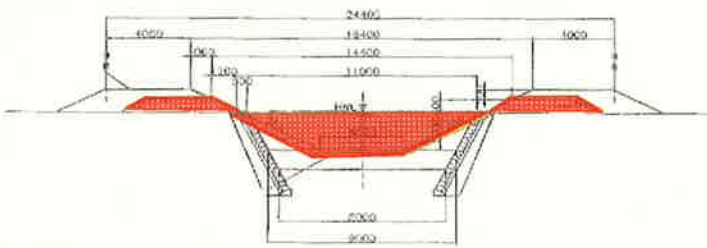
■真野川（上流）総合流域防災事業

完成年次：H30年度

費用	H22～の残事業費（C） （H30完成までの建設費とH30完成後50年間までの維持管理費）										
便益	H22～の残事業に係る便益（B） （H30完成後50年までの便益）										
概要図											
標準断面図											
残事業費用対効果	<table border="1" data-bbox="360 1706 1388 1877"> <tr> <td>費用</td> <td>残事業費(C)</td> <td>1,149百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>残事業に係る便益(B)</td> <td>7,008百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">残事業に係る費用便益比(B/C)</td> <td>6.099</td> </tr> </table> <p>※金額:現在価値化後</p>		費用	残事業費(C)	1,149百万円	便益	残事業に係る便益(B)	7,008百万円	残事業に係る費用便益比(B/C)		6.099
費用	残事業費(C)	1,149百万円									
便益	残事業に係る便益(B)	7,008百万円									
残事業に係る費用便益比(B/C)		6.099									

■ 洞堀川 総合流域防災事業

完成年次：H40年度

費用	H22～の残事業費(C) (H40完成までの建設費とH40完成後50年間までの維持管理費)										
便益	H22～の残事業に係る便益(B) (H40完成後50年までの便益)										
概要図											
標準断面図											
残事業費用対効果	<table border="1" data-bbox="367 1691 1380 1881"> <tr> <td>費用</td> <td>残事業費(C)</td> <td>722百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>残事業に係る便益(B)</td> <td>9,472百万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">残事業に係る費用便益比(B/C)</td> <td>13.119</td> </tr> </table> <p>※金額: 現在価値化後</p>		費用	残事業費(C)	722百万円	便益	残事業に係る便益(B)	9,472百万円	残事業に係る費用便益比(B/C)		13.119
費用	残事業費(C)	722百万円									
便益	残事業に係る便益(B)	9,472百万円									
残事業に係る費用便益比(B/C)		13.119									

残事業投資効率性の考え方について（海岸事業）

■ 侵食対策事業 大曲海岸

完成年次：H23年度

費用	H23までの残事業費とH24～H73（完了後50年）の維持管理費を計上
便益	事業完成後のH24～H73の50年間に於ける発現効果を計上

概要図	<p>概要図: 大曲海岸の aerial view. 1号堤から7号堤までの堤防と、右側の港湾堤が示されています。事業延長はL=6,830mです。背景には鳴瀬川、北上遼河、東松島市、航空自衛隊松島基地、矢本海浜緑地公園が確認できます。</p>																
費用対効果（残事業）	<table border="1"> <tr> <td>事業費（現在価値化）</td> <td>4.33億円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費（現在価値化）</td> <td>9.93億円</td> </tr> <tr> <td>費用合計（C）</td> <td>14.26億円</td> </tr> <tr> <td>侵食防止便益（現在価値化）</td> <td>0.31億円</td> </tr> <tr> <td>浸水防護便益（現在価値化）</td> <td>147.93億円</td> </tr> <tr> <td>残存価値（現在価値化）</td> <td>0.61億円</td> </tr> <tr> <td>効果合計（B）</td> <td>148.85億円</td> </tr> <tr> <td>費用便益比（残事業）</td> <td>10.44</td> </tr> </table>	事業費（現在価値化）	4.33億円	維持管理費（現在価値化）	9.93億円	費用合計（C）	14.26億円	侵食防止便益（現在価値化）	0.31億円	浸水防護便益（現在価値化）	147.93億円	残存価値（現在価値化）	0.61億円	効果合計（B）	148.85億円	費用便益比（残事業）	10.44
事業費（現在価値化）	4.33億円																
維持管理費（現在価値化）	9.93億円																
費用合計（C）	14.26億円																
侵食防止便益（現在価値化）	0.31億円																
浸水防護便益（現在価値化）	147.93億円																
残存価値（現在価値化）	0.61億円																
効果合計（B）	148.85億円																
費用便益比（残事業）	10.44																